

## 年頭のご挨拶

院長 小原 眞

新型コロナウイルス感染症流行の第三波が猛威を振っている中で新しい年を迎えました。当院でも様々な行事や研修会等の機会がなくなり、もの寂しい新年を迎えることとなりました。そんな中、院内外での感染防止対策に努めるなど、地域住民の健康を守るために職員一丸となって取り組んでいます。

さて、Vol.33の紙面でもご紹介した通り、当院は令和2年4月より「地域包括ケア病床」（26床）を立ち上げました。地域包括ケア病床の三本柱である基本理念、すなわち①地域救急の受け皿（サブアキュート）②急性期治療後の受け皿（ポストアキュート）③在宅復帰支援、これらの機能を維持できるよう努力を続けています。その中でも在宅復帰率は高い水準を維持できています。この在宅復帰支援のために力を注いでいることの一つに訪問診療があります。より多く訪問できるよう診療体制を改め、実績を重ねてきました。件数は、平成30年度35件、令和元年度61件でしたが、令和2年度（4月～12月）は130件を数え、昨年度を大きく上回っています。このことにより、患者さんも安心して自宅に退院することができ、地域包括ケアシステムを円滑に稼働させることに繋がっています。関連する医療機関・介護福祉施設等の皆様にも安心してご紹介していただけるよう、今後も努力を続けていきたいと思っています。

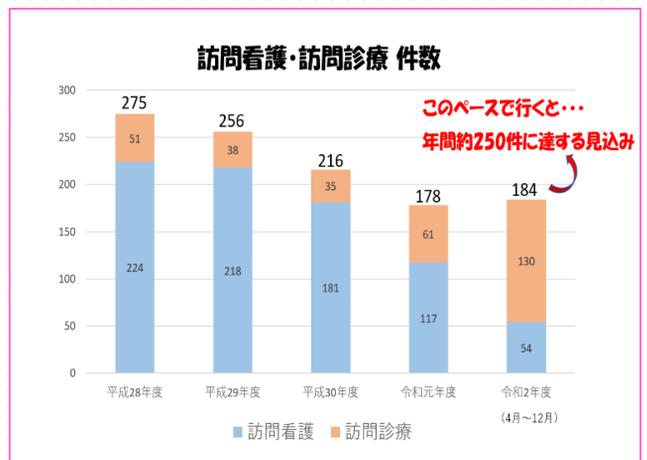
西和賀町は豪雪地対策特別措置法の特別豪雪地帯に指定されており、冬期の累積降雪量は例年10m以上となります。特に今シーズンの降雪量・積雪量は群を抜く多さで、2月5日時点での積雪は245cmを記録しています。この「雪との戦い」はまだまだ続きますが、後に訪れる春を待ちながら、そしてこのコロナ禍を克服できる日を目指して、職員一同より一層努力して行く所存です。今後ともご協力をよろしくお願い致します。



「沢内中学校3年生からいただいた激励の「シトラスリボン」を付けた小原院長



令和3年1月4日 職員の前で講話をする小原院長。年頭に職員の士気を鼓舞しました。



# 激励のリボンをいただきました

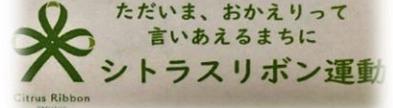
上席主任看護師 佐々木 美千子

昨年11月に、町内にある西和賀町立沢内中学校の3年生の皆さんから「シトラスリボン」をいただきました。そのお礼として、新しい生活様式の中で受験勉強に取り組んでいけるように、スタッフからささやかなプレゼントを贈らせていただきました。私たちも気を引き締めて頑張りたいと思います。

今年、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の行事を始め、多くの活動が縮小や中止となりました。これまでは違った生活様式となり、当たり前前の方が当たり前に感じることに感謝する気持ちが大切だと感じました。そんな中、愛媛県から始まったこの活動を知り、私たちにできることがあると思いました。そして、私たちは次の二つの願いを込めてリボンを製作しました。

- ・地域、家庭、学校における差別や偏見をしない、させない、許さない。
- ・医療従事者、介護福祉関係者をめめた地域、家族への感謝の気持ちを保持。

この二つの願いを込めたりぼんを是非身に付けるか飾ってくださるとうれしく思います。



リハビリテーション科



放射線科



地域包括支援センター分室



検査科



薬局



栄養科



歯科



透析室



病棟



外来



看護師長

上席主任看護師  
佐々木 美千子

コロナが流行しはじめ、1年が経過しようとしており、私たちの生活様式もだいぶ変わりました。当院でも全面会禁止の措置をとっており、家族の面会もままならない状況にあります。そのため、ご希望があれば携帯電話とタブレットでリモート面会を行っています。寝たきりや意思疎通困難な患者さんが多く、実施件数は少ないのですが、関東の娘さんと患者さんの食事風景を繋いで、ご家族には入院風景を、患者さんには家族の声を聞いていただいています。聞かせていただくと、家族から「元気な姿が見れて安心した。」などの声をいただいております。今後も患者・家族のご希望に添っていきまします。

編集後記